

※ 内容が変更になる場合がございます。
※ 開講曜日・時限が変更になる場合がございます。

《商学部》

■商学総論 通年 金曜3限

21世紀に入り、経済活動の国際化、グローバル化、ボーダレス化、はますます進展している。さらに、経済のソフト化・サービス化、高度情報通信ネットワーク化、規制緩和の進展などにより、企業活動の様々な分野で変化がおきている。特に流通の変化はめざましく、商品や商品の販売方法、流通システムに大きな変化があらわれてきている。

特に、ヒト（人員）、モノ（商品）、カネ（金融）、情報、技術やノウハウなどは、国境を越えて自由に大規模に移動しており、国家間の垣根はますます低くなっており、全世界を視野に入れて経営活動（ビジネス活動）を行わなくてはならなくなってきている。

そこでこの商学総論では、上記のような変化、進展に対応するために、企業やその他の組織・機関における商品（有形商品、無形商品、サービス、アイデア、など）についての流通に関連した諸活動に関する基礎的な知識を講義する。

講義を受けるに当たっては、テレビ、新聞等で講義テーマに関するニュース、資料の収集を積極的にすること、を望む。

■経営学総論 通年 木曜4限

我が国は今日、世界有数の経済大国に成長している。とりわけ、第二次大戦後、敗戦から立ち直り、高度成長を達成して、「日本的経営」が世界の注目を浴びるようになった。同時に近年ではグローバル化の進展によって、日本企業の海外進出ばかりでなく、日本への外資の進出によって、日本企業も新たな脱皮を求められており、さらに中国やインドなどの台頭によって、試練に立たされてきている。またモノ作りを基礎としたこれまでの仕組みが知財サービスを中心にした経済の仕組みへと変わろうとしており、その結果、日本の企業の体質も見直されてきている。本講義では、こうした我が国企業を取り巻く新しい経営環境の下での経営諸問題を概説的に講義する。

■簿記入門 春学期 水曜2限

この講義の目的は、受講生諸君に簿記とはどのようなものであるかという基礎的な知識および技法を身に付けてもらうことにある。

現代社会では、個人・会社・公益法人・NPO法人などが経済活動を行っているが、その活動内容を把握し、報告し、より優れた活動方針を決定するときには、会計報告が必要不可欠である。また、国民の義務である適切な納税も会計報告をもとに決定される。さらに、最近よく「ITにより企業競争を勝ち抜く」という表現がみられるが、これは「会計情報をすばやく有効に利用し、戦略を立て、企業活動を行う」、と言う意味で使用されている。また銀行が、企業に融資するかを決定するときも会計報告は重要な判断材料である。

このように私たちの生活は会計と切り離すことはできない。ただ、諸君の中には会計を専門的に学習するのではなく、経営、情報などを学習する人も少なくない。そこで、会計学を学ぶための入門としてまず、会計報告書を作成する手続である「簿記」について学習する。

■基本会計学 秋学期 水曜2限

この講義の目的は、受講生諸君に会計学とはどのようなものであるかという基礎的な知識を身に付けてもらうことにある。

会計の主要な体系には

- ・会計には、決算書として一般に公表する会計報告は、どのような形式で作成し、その内容はどのようなものでなくてはならないかを学習する「財務会計」
- ・会計報告が決められた手順で作成されているかを評価する手法を学習する「監査」
- ・経営者が戦略を立てるときや、戦術の効果を測定するなどに役立つ手法を学習する「管理会計」
- ・日常の業務を体系的に記録するための技法として「簿記」

などがある。

※ 内容が変更になる場合がございます。
※ 開講曜日・時限が変更になる場合がございます。

まずは財務会計の基礎事項を学習し、さらに管理会計や監査について基礎知識を学習することにより、会計学全体の体系が把握できるよう説明する予定である。

■マーケティング論 春学期 水曜2限

新時代のビジネスリーダーにとってマーケティングの本質を理解することはもはや常識となっている。効率生産のみに力をいれていた企業も消費者ニーズに目を向け始めたが、その先の行動の指針が見えないというのがビジネス現場の実態である。さらに、急速な情報化と国際化により、マーケティングも日々刻々と変化し、ビジネス環境は複雑化している。本講義では、現場感覚を重視し、顧客視点からマーケティングの本質を捕らえることに重きを置く。そして、マーケティング基本戦略および商品、価格、流通、販促戦略を自ら企画構築できる実践力を養成する。また最新のIT技術、メディア事情、などマーケティングに大きな影響を及ぼす現象をとらえ、現在のマーケティングビジネスに即したタイムリーな講義を行う。さらにマーケティングの新潮流として、サーチエンジンマーケティング、サービスマーケティング、ビジネスの最新情報等も講義にとりいれてゆく。

■流通論 秋学期 水曜1限

■金融基礎論 春学期 金曜2限

モノやサービスが作られ、提供されていくことを経済活動というが、そのモノやサービスが提供される方向とは逆方向に、その代金の支払という形をとって、お金の流れが発生している。このお金の流れは、金融の一部であるが、金融はこのほかに、モノの流れを伴わないお金の流れ、必ずしもお金の流れを伴わない取引まで扱っている。このように、金融は大変大きな広がりを持っているため、「金融はわかりにくい」と感じる人が多いようである。

しかし、金融は我々の生活に密接な関わりがあり、社会に出てからは、いやでも対応しなければならなくなる。本講義は、金融に関する基礎的な知識、金融を学ぶ上で最低限理解しておかなければならない数学や統計などを解説することによって、そうした社会に出てからの対応ができるようにするとともに、秋学期の金融システム論への導入部分としての役割も持たせている。

■国際経営論 通年 火曜2限

7年間に、名古屋大学を始め、南山大・愛知大・愛知工業大・名古屋女子大・中京女子大・東邦学園大等から、多数の受講の実績あり。学部も経済学部・経営学部にとどまらず、文学部等さまざまな学部からの参加がある。初めての他大学受講で不安だったが、講義の雰囲気も良かったと好評を博している。

1990年代末以来、巨大な企業同士の合併・経営統合・提携の報道に接さない日はないと言っても過言ではない。本講義はこの巨大なうねりの歴史的背景にも言及しつつ、今日の最新の動向に迫るものである。商学部プレゼンツ、同年度開講の「多国籍企業論」「国際マーケティング政策」などと合わせて受講すれば、今日の国際的ビジネスに関する理解が立体的に深まり、学生諸君の就職活動に役立つことはもとより、社会へ出たのちに生きてゆく上での大きな力となることであろう。昨年度も「もっとも大学の講義らしい授業だった」、「社会が見えるようになりました」等の受講者からの声があり、例年好評を博している充実の講義内容。

担当者自身による最新のテキストを使用し、携帯電話、自動車など、学生諸君の関心の強い産業を主体に近年の国際的再編の実態をみてゆく。最初は身近な関心から入り、徐々に今日のグローバル経営の生々しさに触れてもらえればと思う。

■人的資源管理論 春学期 月曜2限

経営における技術や設備などの進歩には目を見張るものがある。が、これら物的諸要素を駆使するのは、究極的には「人間」以外の何ものでもない。したがって、円滑な経営活動を行うために

※ 内容が変更になる場合がございます。
※ 開講曜日・時限が変更になる場合がございます。

は、まずもって人間・従業員に対する管理、すなわち「人的資源管理」(HRM)が適切に行われなければならない。本講義では、このような意義をもつ人的資源管理について、学説史的考察をふまえたうえで、そのいくつかの主要領域を検討していきたい。

■証券投資論 通年 火曜3限

本講義は、伝統的な個別証券分析の方法は勿論、個別証券の価格変動リスクを回避することができるポートフォリオ理論、さらに証券市場全体の価格変動リスクを管理できる指数先物・指数オプション取引を用いた投資戦略について学習することから、最適な証券投資のあり方を提示する。

I 証券と投資

証券と証券市場、証券投資、および証券分析について概観する。

II 評価の基本原則

投資評価の基本となる貨幣の時間価値の概念とその計算方法、また投資評価において考慮せねばならない収益率とリスクに関して学習する。

III 債券分析

債券投資においてその価格とその利回りはどのように推定されるか、また利子率の期間構造に関する理論と債券の投資戦略等について紹介する。

IV 株価指標と投資尺度

株価はどのような要因によって変動されているかを検討し、市場の株価変動を表わす株価指標、投資家の投資選択に用いられる個別銘柄の投資尺度等について学習する。

V ファンダメンタル・アナリシス

伝統的な証券分析の一つの方法であるファンダメンタル・アナリシスの分析体系、その考え方に基づいた株式の評価モデル、および財務比率の分析等について学習する。

VI テクニカル・アナリシス

実務界でよく使われてきた伝統的な証券分析のもう一つの方法であるテクニカル・アナリシスにおいて、その分析方法としてのトレンド分析とパターン分析におけるチャート・リーディングの方法とその限界、およびケイ線の表現方法等を学習する。

VII ポートフォリオ理論

現代の投資理論の核を成しているポートフォリオ理論を、個別証券の分析、ポートフォリオの分析、ポートフォリオの選択という投資選択の過程にそって学習する。ここでは、平均、分散、共分散、相関係数などの統計学の知識が必要とされるが、それらを分かりやすく説明していく。

VIII CAPMにおける収益とリスク

ポートフォリオ理論に基づいて展開されたCAPMはどのようにして導出されるか、そのCAPMが意味するものは何であるか、またCAPMの検証に用いられている市場モデルの推定およびCAPMの証券投資への応用とその限界などを明らかにする。

IX 株価指数先物の投資戦略

先物取引の機能、先物の理論価格などについて概説した後、日本の日経平均株価先物取引の仕組み、および株価指数先物を利用した投資戦略等について学習する。

X 株価指数オプションの投資戦略

オプションとオプション取引、基本的なオプション取引の損益、オプションの価格理論などについて概説し、また日本のTOPIXオプション取引を利用した投資戦略等について学習する。

■国際金融論 秋学期 水曜2限

わが国経済の国際化の進展に伴って、金融の分野においても国際化が進展してきている。この金融の国際化は金融機関にとどまらず、一般の企業も、海外の市場で直接資金を調達したり、運用するなど、国際金融市場と関りをもつ機会が増えている。したがって、これからの企業財務担当者は、国内金融市場のみならず、国際金融市場の動向も踏まえたポートフォリオ戦略を求められることになろう。本講義はそうした時に必須となる国際金融に関する基礎的な概念の解説を中心に行う予定である。

※ 内容が変更になる場合がございます。
※ 開講曜日・時限が変更になる場合がございます。

■管理会計基礎論 春学期 火曜2限

■コンピュータ会計 春学期 火曜3限

この講義では次の項目についての理解を深めることを目標とする。1. 会計業務におけるデータ処理とデータベース設計について理解する。2. 講義用に準備したデータを利用して、実際にデータベースの操作手法を習得する。3. 必要とされる報告書を作成するために行うデータ処理の手法を理解し、実際に報告書を作成する。4. システムの信頼性を確保する手法について理解する。5. その他関連する事項を理解する。

■コンピュータ会計実習 秋学期 火曜3限

この講義では次の項目についての理解を深めることを目標とする。1. 会計業務におけるデータ処理とデータベース設計について理解する。2. 講義用に準備したデータを利用して、実際にデータベースの操作手法を習得する。3. 必要とされる報告書を作成するために行うデータ処理の手法を理解し、実際に報告書を作成する。4. システムの信頼性を確保する手法について理解する。5. その他関連する事項を理解する。

■会計監査論 秋学期 木曜2限

現代企業、とくに株式会社にはなぜ監査が必要か。監査の種類と体系をまず、広く整理する。監査の中心は、やはり会計監査であるため、財務諸表についても学習する。また、今日、監査に関連する、企業の重大な事件が発生している。講義ではそれらの事件をとりあげることによって、監査のもつ影響力の大きさや現代的な監査の必要性について学び、さらには受講生諸君が将来、社会人としての規範意識をどのように持つべきかということ意識するきっかけとしていただきたいとも考えている。

■情報と職業 春学期 水曜2限

■情報倫理 春学期 火曜2限

ICT社会における情報倫理について講義する。基本的には、情報化が人間社会に与える光と影の様々な側面において具体的な事例を多く取り上げ、今日の情報社会におけるマナーや防衛策の体得と、ユビキタス社会における新たな文化の創造に貢献できる実践力の養成を目指す。

■情報社会論 秋学期 月曜2限

IT革命とか情報革命、あるいは高度情報社会といった言葉が盛んに使われるようになって久しい。「情報」という言葉は極めて曖昧であるが、「情報技術 (Information Technology)」の高度な応用、象徴的にはデジタル化とネットワーク化をその基盤とする「情報社会」は着実に進展しつつある。その変化の早さ、激しさは「革命」と言うに相応しく、「農業革命」そして「産業革命」に次ぐ「第三の波」と称される。それは、生活、経済、産業、教育、行政、文化等々、あらゆる面での変化を促しつつある。しかし、この「革命」は未だ端緒についたばかりであり、今後も大きなうねりをもって進行することは明らかである。一方、「産業革命」が種々の問題を引き起こしたように「IT革命 (情報革命)」にも「影」の部分が多く存在している。情報社会特有の「犯罪」や「社会不安」も次第に増加し、更には、「ITを使える者」と「使えない者」つまり「デジタルディバイド」の問題も深刻化しようとしている。本講義においては、こういった情勢を理解し、「光」と「影」を正しく認識した上で、情報社会に生き、かつ、その健全な発展に寄与できる「常識人としての知恵」の基盤を醸成することを期する。

※ 内容が変更になる場合がございます。
※ 開講曜日・時限が変更になる場合がございます。

■情報ネットワーク論 秋学期 火曜2限

世界規模の社会基盤である情報ネットワークは社会を大きく変えつつある。その仕組みを理解せずに情報ネットワークを有益に使いこなすことはできない。本講義では技術的側面の学習をするとともに、情報社会やプライバシーなどの社会的側面についても並行して学習する。

(1) 情報の生成

情報とはということと、単なるデータがどのようにして情報となるのか、情報を処理するとはどのようなことかなどについての説明を行なう。

(2) 情報の表現

情報を扱うためには、その内容が文字、数値、図形など何らかの形でまとめられて表現される必要がある。またこの文字、数値、図形がコンピュータで扱われる場合には、コンピュータで処理できる型に変換されることになる。このような情報がどのように表現され処理されるかを説明する。

(3) 情報の受発信

インターネットを中心として情報の受発信ということを考える。ホームページ、メール等の仕組みを理解し、どのように発信したい情報を生成し、発信するようにするとよいかを考える。

(3) 情報の交換

情報を共有するために、ネットワーク内の多数のコンピュータを接続し、その間でデータの交換を行うようなシステムが使用されている。このコンピュータネットワークを使用して情報を交換するための機器、ソフトとしてどのようなものがあり、それをどのように利用するかについての説明を行う。

■サプライチェーン・システム 秋学期 金曜2限

サプライチェーンとは、企業から供給される製品やサービスが顧客にわたるまでの活動のつながりのことである。その活動には、原材料の調達や製品の生産、在庫や物流など、製品やサービスが顧客にわたるまでのすべての活動が含まれる。

本講義では、サプライチェーンの仕組みの特徴や理論などを習得し、実際の企業での事例についても解説する。サプライチェーンの活動はいくつかの企業活動がかかわっており、全体最適を目的として複数の企業連携における仕組みが構築されているが、その仕組み作りの重要性や課題についても考えていく。

■顧客管理システム 秋学期 水曜2限

インターネットの進展、あるいは通信技術の進展は、かつてのビジネスモデルを革新しようとしている。それまでのビジネスモデルは、ピラミッド型の命令系統と内部経済性によって構造化され、出版・放送技術によるマーケティング活動が収益拡大に貢献した。業種を問わず類似した製造設備やプロセスが確立され、マネジメント理論が発達し、この時代に開発された情報技術アプリケーションはこれらのビジネスモデルを支えるものであったといえる。

しかしながら、世界が放送技術から双方向型パラダイムに移行するにつれ、この前提条件が大きく変化し始めた。インターネットの進展によって成長した経済基盤が、活でのビジネスモデルの再検討を迫っている。すなわち、全世界を覆い始めた、富を創造する新たなビジネスモデル、e-ビジネスが出現したためである。

本講義は、e-コマースを基にして、SCM(サプライチェーンマネジメント)およびCRM(顧客管理システム)に焦点を当て、ビジネスモデルと意思決定の関係を論じることにしたい。短期であるが、これからの企業のあり方を考究することにする。

■意思決定システム論 秋学期 木曜2限

意思決定は、人間のあらゆる意識行動に先立つものであり、経営学だけでなく、行政や政治、企

※ 内容が変更になる場合がございます。
※ 開講曜日・時限が変更になる場合がございます。

業組織においても重要視されるものであり、領域を超えた学問である。この意思決定は、1978年にノーベル経済学賞を受賞したハーバート・A・サイモンの業績を抜きにしては語れない。彼の業績は、人間行動の一般原理を説明する未知を開いたからに他ならない。この原理は、バーナードらによって体系化されていたが、コンピュータと結びついたあらたな体系を創造したサイモンに現代経営学の抱える問題解決へのヒントが隠されていると称賛された理由でもある。これに対して、ORの方面から戦略を研究していた Saaty がシステムアプローチ方法を提唱した。初期は、AHP (Analytical Hierarchy Process) であったが、最近は ANP (Analytical Network Process) が支配的になっていて、MCDM (Multi Criteria Decision Management) へと意思決定の領域が拡大している。

意思決定は、社会人や大学院レベルでも難しいが、この本質は同じであり、学部の学生にも理解できるように優しく解説することにする。

■経営情報システム論 通年 木曜3限

経営情報システムは、経営に関する情報システムと理解され、情報技術を用いて業務や管理活動を支援するというのが一般的な定義である。しかし、経営情報システムの対象が組織・個人にまで遡ること、さらに、自然科学の方法論が適用できない部分が多く、事例の解釈的アプローチによって研究がなされてきた。このため、経営情報システム論としての方法論を見出すことができず、理論化のための分析やフレームづくりの段階にとどまっている。

経営情報システムは、企業や組織における業務や管理活動を効果的に遂行するための一つの手段であり、たとえ情報技術を駆使しなくても業務や管理活動が円滑にできる仕組みがあるならば、それは優れた経営情報システムがあると広義に解すべきであり、経営情報システムにおいては情報技術が必要条件とはならない。バーナード以降、経営学が追求してきたのは組織や経営に関することであり、情報技術の関与によって、加速度的に経営学の発展をみている。

本講義は、情報システムが経営学から経営情報の対象に至った必然的な理由と、経営情報システムを支える情報技術について考察する。まず、情報石油危機を転換点とした社会の流れやコンピュータと通信技術の歴史を考察する。そして、経営学の立場から、企業の理論、科学的管理など経営情報論が生まれる以前の組織と管理に関する代表的な見解のいくつかを紹介し検討する。次に、組織と管理の基本的機能の意思決定に関するサイモンの学説と批判について触れ、意思決定方法の考え方を考察する。また、ハードウェア、ソフトウェア、データベースおよび情報通信インフラに関する基礎的事項を考察する。ハードウェアに関しては、コンピュータの構成と基本原理、周辺装置、コンピュータの種類と役割、ソフトウェアに関しては、ソフトウェアの体系、OSと言語、セキュリティ、データベースでは、概念と分散データベース、情報通信インフラでは光ファイバーを取り上げる。

秋学期は、事例をもとに組織内で利用されてきた経営情報システムの類型化を行い、システム構築技術、新たな情報システムの形態に触れ、最後にシステム構築の手順を考察する。まず、いくつかの事例を見ながら経営情報システム(MIS)、意思決定支援システム(DSS)、および戦略的情報システム(SIS)の考え方と情報技術とのかかわりについて考察する。次ぎに、大規模化、複雑化、多様化した情報ニーズに応える開発方法論に触れる。また、最近顕著となっているダウンサイジングやグループウェア、組織変革の情報システム(BPR)、サプライチェーン(SCM)、ナレッジ・マネジメントシステムの役割や概念について紹介する。最後に、企業の経営者や幹部社員の立場で、システム企画書の作成やシステム構築の手順を考察して講義を終える。

また、組織サイバネティクスを経営情報システムの論理基盤とする理論化に向けた新たな試みや、環境や組織構造における情動的相互作用を明らかにしようとしているコンティンジェンシー理論などにもふれる。